		建築物の名称	 建築物の位置	建築物の	未」欄の数値は、建業物の各階、名 耐震診断の方法の名称	構造耐力上主	要な部分の地全性の評価の	1	修等の予定	備考1	————————————— 備考2
No.		建築物の名称	建築物の位直	主たる用途	・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	展に対する女 結果	主任の評価の	内容	実施時期	(耐震診断に係る補足)	(耐震改修に係る補足)
	伊香	保グランドホテル									
					一般財団法人日本建築防災協会に よる「既存鉄筋コンクリート造建築物 の耐震診断基準」に定める「第2次 診断法」(2001年版)	$I_{S}/I_{S0} = 0.06$	$C_{TU} \cdot S_D = 0.04$			・地上4階から7階及び 塔屋階部分	
		1号棟			一般財団法人日本建築防災協会に よる「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建 築物の耐震診断基準」に定める「第 2次診断法」(2009年版)(鉄骨が非 充腹材の場合)	$I_{S}/I_{S0} = 0.10$	$C_{TU} \cdot S_D = 0.07$	耐震改修	未定	・地下1階及び地上1階 から3階部分 ・鉄筋コンクリート造との 混構造のため、鉄骨鉄 筋コンクリート造のC _{TU} ・ S _D の基準値0.28Z・R _T ・ G・Uを0.3Z・R _T ・G・Uとし て判定している。	
1			渋川市 伊香保町伊香保	旅館	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	$I_{S}/I_{S0} = 0.18$	C _{TU} •S _D =0.23			・地上3階から8階部分	
		2号棟	550		一般財団法人日本建築防災協会に よる「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建 築物の耐震診断基準」に定める「第 2次診断法」(2009年版)(鉄骨が充 腹材の場合)	$I_{S}/I_{S0} = 0.20$	$C_{TU} \cdot S_D = 0.26$	耐震改修	未定	・地下1階及び地上1階 から2階部分 ・鉄筋コンクリート造との 混構造のため、鉄骨鉄 筋コンクリート造のC _{TU} ・ S _D の基準値0.25Z・R _T ・ G・Uを0.3Z・R _T ・G・Uとし て判定している。	耐震補強設計済
					一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	$I_{S}/I_{S0} = 0.55$	$C_{TU} \cdot S_D = 0.42$			・地上4階から7階部分	
		客室棟			一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2009年版)(鉄骨が充腹材の場合)	$I_{S}/I_{S0} = 0.73$	$C_{TU} \cdot S_D = 0.62$	耐震改修	未定	・地上1階及び地上1階 から3階部分・鉄筋コンクリート造との 混構造のため、鉄骨鉄 筋コンクリート造の C_{TU} ・ S_D の基準値 $0.25Z\cdot R_T\cdot G\cdot Uを0.3Z\cdot R_T\cdot G\cdot Uとして判定している。$	

「構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価の結果」欄の数値は、建築物の各階、各方向の最小のものを記載しています。

No.		建築物の名称	建築物の位置	建築物の	未」欄の数値は、産業物の各階、も 耐震診断の方法の名称	構造耐力上的	E要な部分の地 全性の評価の	I	修等の予定	備考1	
INO.		建業物の石林	建築物の位置	主たる用途		展に対する女 結果	主性の計画の	内容	実施時期	(耐震診断に係る補足)	(耐震改修に係る補足)
	ホテル	しきむら									
		高砂棟			一般財団法人日本建築防災協会に よる「既存鉄筋コンクリート造建築物 の耐震診断基準」に定める「第2次 診断法」(2001年版)	$I_{S}/I_{S0} = 1.16$	$C_{TU} \cdot S_D = 0.72$			・地下1階及び地上1階から3階部分	
			渋川市 伊香保町伊香保 557-28、		一般財団法人日本建築防災協会に よる「既存鉄骨造建築物の耐震診断 指針」(1996年版、2011年版)	I _S =0.13	q=0.51			・地上4階部分	
2		高砂棟 (6階建部分)	-31、-32、 -33、-48、 558-16、	旅館	一般財団法人日本建築防災協会に よる「既存鉄骨造建築物の耐震診断 指針」(1996年版、2011年版)	I _S =0.14	q=0.57	耐震改修	令和9年度		耐震補強設計済
		ロイヤル棟 (7階建部分)	558-17		一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	$I_{S}/I_{S0} = 0.51$	$C_{TU} \cdot S_D = 0.32$			・地上1階から6階部分	
		(7)自建品》)			一般財団法人日本建築防災協会に よる「既存鉄骨造建築物の耐震診断 指針」(1996年版、2011年版)	I _S =0.13	q=0.49			・地上7階部分	
		ロイヤル棟 (2階建部分)			一般財団法人日本建築防災協会に よる「既存鉄骨造建築物の耐震診断 指針」(1996年版、2011年版)	I _S =0.30	q=1.19				

「構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価の結果」欄の数値は、建築物の各階、各方向の最小のものを記載しています。

		建築物の名称	建築物の位置	建築物の		構造耐力上主要な部分の地 震に対する安全性の評価の		:修等の予定	備考1	
No.		建築物の名称	建架初の位直	主たる用途		 結果	内容	実施時期	(耐震診断に係る補足)	(耐震改修に係る補足)
	ホテ	ル天坊								
					一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	$I_{S}/I_{S0} = 1.01$ $C_{TU} \cdot S_{D} = 0.55$			・地上3階から7階及び 塔屋階部分	耐震改修済
		A棟			一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第 2次診断法」(2009年版)(鉄骨が充腹材の場合)	$I_{S}/I_{S0} = 1.00 C_{TU} \cdot S_{D} = 0.48$	ĺ	ı	・地下1階及び地上1階から2階部分	平成28年3月完了
3		A'棟	渋川市 伊香保町伊香保 396-20	旅館	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	$I_{S}/I_{S0} = 1.01$ $C_{TU} \cdot S_D = 0.43$	ı	ĺ		耐震改修済 平成28年3月完了
		B棟			一般財団法人日本建築防災協会に よる「既存鉄筋コンクリート造建築物 の耐震診断基準」に定める「第2次 診断法」(2001年版)	$I_{S}/I_{S0} = 1.00 C_{TU} \cdot S_{D} = 0.61$	ı	I		耐震改修済 平成27年6月完了
					一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	$I_{S}/I_{S0} = 1.00 C_{TU} \cdot S_{D} = 0.61$			・地上5階から9階及び 塔屋階部分	耐震改修済
		C棟			一般財団法人日本建築防災協会に よる「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建 築物の耐震診断基準」に定める「第 2次診断法」(2009年版)(鉄骨が非 充腹材の場合)	$I_{S}/I_{S0} = 1.11 C_{TU} \cdot S_{D} = 0.32$	_	_	・地上1階から4階部分	啊 展 以 修 / / 平成29年3月完了

「構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価の結果」欄の数値は、建築物の各階、各方向の最小のものを記載しています。

No.		建築物の名称	建築物の位置	建築物の	お電砂ビのナオのタサ	構造耐力上主要な部 震に対する安全性の		耐震改	修等の予定	備考1	 備考2
NO.		连案初07石称	建采物の位置	主たる用途	・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	結果	計画の	内容	実施時期	(耐震診断に係る補足)	(耐震改修に係る補足)
	森秋	旅館									
		本館			一般財団法人日本建築防災協会に よる「既存鉄筋コンクリート造建築物 の耐震診断基準」に定める「第2次 診断法」(2001年版)	I _S /I _{S0} =0.06 C _{TU} ·S _I	_D =0.18			・対象建築物が高台に位置するため、地盤指標G = 1.2 としている。	
					一般財団法人日本建築防災協会に よる「既存鉄筋コンクリート造建築物 の耐震診断基準」に定める「第2次 診断法」(2001年版)	$I_{S}/I_{S0} = 0.36$ $C_{TU} \cdot S_{T}$	_D =0.14			・地上1階から4階部分 及び地上5階の一部 ・対象建築物が高台に位置するため、地盤指標G =1.2としている。	
4			渋川市 伊香保町伊香保 60	旅館	一般財団法人日本建築防災協会に よる「既存鉄骨造建築物の耐震診断 指針」(1996年版、2011年版)	I _S =0.22 q=	0.89	耐震改修	未定	・地上5階の一部(鉄骨造部分) ・対象建築物が高台に位置するため、基準値を 1.2倍のI _S =0.72、q= 1.20としている。	耐震補強設計済
		第一別館				$I_{S}/I_{S0} = 0.18 C_{TU} \cdot S_{I}$	_D =0.17			・対象建築物が高台に位置するため、地盤指標G =1.2としている。	
		第二別館			一般財団法人日本建築防災協会に よる「既存鉄筋コンクリート造建築物 の耐震診断基準」に定める「第2次 診断法」(2001年版)	$I_{S}/I_{S0} = 0.08 C_{TU} \cdot S_{I}$	_D =0.20			・対象建築物が高台に位置するため、地盤指標G =1.2としている。	
		浴場棟				$I_{S}/I_{S0} = 0.33$ $C_{TU} \cdot S_{I}$	_D =0.14				

No.		建築物の名称	建築物の位置	建築物の主たる用途	末」欄の数値は、建業物の各階、を 耐震診断の方法の名称	構造耐力上主要な部分の地 震に対する安全性の評価の	耐震改	修等の予定	備考1 (耐震診断に係る補足)	備考2 (耐震改修に係る補足)
	よろこしん	こびの宿 喜		17. 0/1122		結果	内容	実施時期	(m) De la	MIDE A PETER OTTO
5		東棟	渋川市 伊香保町伊香保	旅館		$I_{S}/I_{SO} = 0.05$ $C_{TU} \cdot S_{D} = 0.11$				
3		西北棟	557-34、 -35、-49		一般財団法人日本建築防災協会に よる「既存鉄筋コンクリート造建築物 の耐震診断基準」に定める「第2次 診断法」(2001年版)	$I_{S}/I_{SO} = 0.50$ $C_{TU} \cdot S_{D} = 0.31$	耐震改修	令和12年度		耐震補強設計済
		西南棟				$I_S/I_{SO} = 0.33$ $C_{TU} \cdot S_D = 0.15$				
6		ガーデン	安中市 磯部一丁目	旅館	一般財団法人日本建築防災協会に よる「既存鉄筋コンクリート造建築物	$I_S/I_{SO} = 1.01 C_{TU} \cdot S_D = 0.611$	_	ı	・全体の最小値	耐震改修済
	3•5	畨郎	12番5号		の耐震診断基準」に定める「第2次 診断法」(2001年版)	$I_S/I_{SO} = 1.00 C_{TU} \cdot S_D = 0.609$			・ゾーニング別の最小値	平成31年3月完了

No.		建築物の名称	建築物の位置	建築物の	料電砂ビのナオの夕か	構造耐力上主要な部分の地 震に対する安全性の評価の	耐震改	修等の予定	備考1	備考2
INO.		连来物07名称	(注入物の位置)	主たる用途		結果	内容	実施時期	(耐震診断に係る補足)	(耐震改修に係る補足)
	東海嬬恋									
					一般財団法人日本建築防災協会に よる「既存鉄筋コンクリート造建築物	$I_{S}/I_{S0} = 1.15 C_{TU} \cdot S_{D} = 0.70$			・建築物本体の全体 の最小値	
7		A棟	大字干俣 字熊四郎山 2401番地、	旅館	の耐震診断基準」に定める「第2次 診断法」(2001年版)	$I_{S}/I_{S0} = 1.01 C_{TU} \cdot S_{D} = 0.62$	_	-	・建築物本体のゾーニング別の最小値	
			国有林200い林小班ほか		一般財団法人日本建築防災協会に よる「既存鉄骨造建築物の耐震診断 指針」(1996年版、2011年版)	I _S =2.25 q=9.01			・車寄せ部分	
		B棟			一般財団法人日本建築防災協会に よる「既存鉄筋コンクリート造建築物	$I_{S}/I_{S0} = 1.16 C_{TU} \cdot S_{D} = 0.51$	_	_	・全体の最小値	耐震改修済
		1D1 1 A			の耐震診断基準」に定める「第2次 診断法」(2001年版)	$I_{S}/I_{S0} = 1.16 C_{TU} \cdot S_{D} = 0.48$			・ゾーニング別の最小値	平成30年3月完了

「構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価の結果」欄の数値は、建築物の各階、各方向の最小のものを記載しています。

No.	建築物の名称	建築物の位置	建築物の	未」「網の数値は、建業物の音幅、T	構造耐力上主要な部分の地 震に対する安全性の評価の		7修等の予定	備考1	
INO.	産業物の石材	建築物の位置	主たる用途	・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	結果	内容	実施時期	(耐震診断に係る補足)	(耐震改修に係る補足)
	万座プリンスホテル								
	中央棟			一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	$I_S/I_{S0} = 1.00 C_{TU} \cdot S_D = 0.64$	I	_		耐震改修済 平成27年12月完了
	食堂棟			一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第 3次診断法」(2009年版)(鉄骨が充腹材の場合)	$I_{S}/I_{S0} = 1.56$ $C_{TU} \cdot S_{D} = 0.31$			X方向	耐震改修済
	及圣傑			一般財団法人日本建築防災協会に よる「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建 築物の耐震診断基準」に定める「第 2次診断法」(2009年版)(鉄骨が充 腹材の場合)	$I_{S}/I_{SO} = 1.48 C_{TU} \cdot S_{D} = 0.29$	_	_	Y方向	平成27年12月完了
	ファミリー棟			一般財団法人日本建築防災協会による「既存壁式プレキャスト鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断指針」 に定める第2次診断法	$I_{S}/I_{S0} = 2.00 C_{TU} \cdot S_{D} = 1.23$	-	_		
8	和室棟	吾妻郡嬬恋村 万座温泉	ホテル	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	$I_S/I_{S0} = 1.01$ $C_{TU} \cdot S_D = 0.42$	-	_		
	しゃくなげ ホール棟			一般財団法人日本建築防災協会に よる「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建 築物の耐震診断基準」に定める「第 3次診断法」(2009年版)(鉄骨が充 腹材の場合)	$I_{S}/I_{S0} = 1.00 C_{TU} \cdot S_{D} = 0.25$	-	_		耐震改修済 平成27年12月完了
	ツインルーム棟			一般財団法人日本建築防災協会に よる「既存壁式プレキャスト鉄筋コン クリート造建築物の耐震診断指針」 に定める第2次診断法	$I_{S}/I_{S0} = 1.68 C_{TU} \cdot S_{D} = 0.69$	_	_		
	東館			一般財団法人日本建築防災協会による「既存壁式プレキャスト鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断指針」に定める第1次診断法により想定する地震動に対して所要の耐震性を確保していることを確認する方法	$I_{\rm S}/I_{\rm S0} = 2.56$	_	_	•塔屋階部分	_
				一般財団法人日本建築防災協会による「既存壁式プレキャスト鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断指針」に定める第2次診断法	$I_S/I_{S0} = 1.88$ $C_{TU} \cdot S_D = 1.21$			・地上1階から3階部 分	

No	建築物の名称	建築物の位置	建築物の	耐震診断の方法の名称	構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価の	耐震改	修等の予定	備考1	備考2
INO	建業物の石材	建築物の位置	主たる用途	剛長診例の万法の石物	結果	内容	実施時期	(耐震診断に係る補足)	(耐震改修に係る補足)
	草津温泉	吾妻郡草津町		一般財団法人日本建築防災協会に よる「既存鉄筋コンクリート造建築物 の耐震診断基準」に定める「第2次 診断法」(2001年版)				・地上1階から7階部 分	
9	ホテル一井 別館棟	大字草津 字西町430		一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第1次診断法」により想定する地震動に対して所要の耐震性を確保していることを確認する方法	$I_{\rm S}/I_{\rm S0} = 0.52$	_	_	•塔屋階部分	耐震改修済 令和7年1月完了

No.		建築物の名称	建築物の位置	建築物の	 耐震診断の方法の名称	構造耐力上主要な部分の地 震に対する安全性の評価の	耐震改	修等の予定	備考1	 備考2
INO.		建業物の石材	建築物の位置	主たる用途		結果	内容	実施時期	(耐震診断に係る補足)	(耐震改修に係る補足)
	草津 ホテ.	温泉 ルリゾート								
					一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2009年版)(鉄骨が非充腹材の場合)	$I_{S}/I_{S0} = 0.53$ $C_{TU} \cdot S_{D} = 0.26$			・地上1階から3階部 分及び地上6階部分	
		高層棟	吾妻郡草津町		一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	$I_{S}/I_{S0} = 0.73$ $C_{TU} \cdot S_{D} = 0.47$			・地上4階から5階部分	
10			大字草津 15番8	旅館	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第1次診断法」により想定する地震動に対して所要の耐震性を確保していることを確認する方法	$I_{\rm S}/I_{\rm S0} = 0.43$	耐震改修	未定	•塔屋階部分	耐震補強設計中
					一般財団法人日本建築防災協会に よる「既存鉄筋コンクリート造建築物 の耐震診断基準」に定める「第2次 診断法」(2001年版)	$I_{S}/I_{S0} = 0.40 C_{TU} \cdot S_{D} = 0.26$			・地下1階及び地上1階から3階部分	
		低層棟			一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第1次診断法」により想定する地震動に対して所要の耐震性を確保していることを確認する方法	$I_{\rm S}/I_{\rm S0} = 0.70$			•塔屋階部分	

「構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価の結果」欄の数値は、建築物の各階、各方向の最小のものを記載しています。

N ₁ -	建築物の名称	建築物の位置	建築物の	耐震診断の方法の名称	構造耐力上主要な部分の地 震に対する安全性の評価の	耐震改	修等の予定	備考1	 備考2
No.	建築物の石林	建築物の位直	主たる用途		結果	内容	実施時期	(耐震診断に係る補足)	(耐震改修に係る補足)
	白根観光 レ櫻井 本客殿								
	50H棟			一般財団法人日本建築防災協会に よる「既存鉄筋コンクリート造建築物 の耐震診断基準」に定める「第2次 診断法」(2001年版)	$I_{S}/I_{S0} = 0.51$ $C_{TU} \cdot S_{D} = 0.31$			・昭和51年竣工、地 上6階建て及び塔屋2 階建て部分	
	50L棟			一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	$I_{S}/I_{S0} = 0.78$ $C_{TU} \cdot S_{D} = 0.32$	耐震改修	未定	·昭和51年竣工、地 上2階建て部分 ·X方向(桁行方向)	耐震補強設計済
11		吾妻郡草津町 大字草津 字西山 468-4他	旅館	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第3次診断法」(2001年版)	$I_{s}/I_{s0} = 0.98$ $C_{TU} \cdot S_{D} = 0.31$	删废以廖	不 足	・昭和51年竣工、地 上2階建て部分 ・Y方向(張り間方向)	P.V. 1 D. S.D. S.C. CHT. S.S.C. CIVI
	53H棟			一般財団法人日本建築防災協会に よる「既存鉄筋コンクリート造建築物 の耐震診断基準」に定める「第2次 診断法」(2001年版)	$I_{s}/I_{so} = 0.51$ $C_{TU} \cdot S_{D} = 0.31$			・昭和54年竣工、地 上6階建て及び塔屋2 階建て部分	
	53L棟			一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	$I_{S}/I_{S0} = 1.30$ $C_{TU} \cdot S_D = 0.40$	_		·昭和54年竣工、地 上2階建て部分 ·X方向(桁行方向)	
	٥٥ ـ الم			一般財団法人日本建築防災協会に よる「既存鉄筋コンクリート造建築物 の耐震診断基準」に定める「第3次 診断法」(2001年版)	$I_{S}/I_{S0} = 2.31$ $C_{TU} \cdot S_D = 0.43$			・昭和54年竣工、地 上2階建て部分 ・Y方向(張り間方向)	

No.		建築物の名称	建築物の位置	建築物の	計画診断の七はの夕我	構造耐力上主要な部分の地 震に対する安全性の評価の	耐震改	:修等の予定	備考1	
INO.		産業物の石物 (建某物の位置	主たる用途	順長砂断のガ法の右称	結果	内容	実施時期	(耐震診断に係る補足)	(耐震改修に係る補足)
	草津 ナウ ^ι	リゾートホテル								
					一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	$I_{S}/I_{S0} = 0.25$ $C_{TU} \cdot S_{D} = 0.20$			・地上1階から7階部 分	
12			吾妻郡草津町 大字草津		一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第1次診断法」により想定する地震動に対して所要の耐震性を確保していることを確認する方法	$I_{\rm s}/I_{\rm so} = 0.81$	耐震改修	未定	•塔屋階部分	
		B棟	747番地			$I_{S}/I_{S0} = 0.48$ $C_{TU} \cdot S_{D} = 0.30$				耐震補強設計済
		C棟			一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	$I_{S}/I_{S0} = 0.85$ $C_{TU} \cdot S_{D} = 0.52$				
		E棟				$I_{S}/I_{S0} = 1.46 C_{TU} \cdot S_{D} = 0.93$	_	_	・建築物本体の全体 の最小値	
		<u> </u>				$I_{S}/I_{S0} = 2.61 C_{TU} \cdot S_{D} = 0.51$			・建築物本体のゾーニング別の最小値	

No.		建築物の名称	建築物の位置	建築物の	耐電診解の七はの夕我	構造耐力上主	要な部分の地会性の評価の		修等の予定	備考1	
INO.		建業初の名称	建築物の位置	主たる用途	・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	展に対する女 結果	主任の計画の	内容	実施時期	(耐震診断に係る補足)	(耐震改修に係る補足)
	ホテノ	ル大東館									
		高層棟A			一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第 2次診断法」(2009年版)(鉄骨が非充腹材の場合)	$I_{S}/I_{S0} = 0.58$	$C_{TU} \cdot S_D = 0.29$			・地上1階から8階部 分、地上9階の一部 及び塔屋階部分	
					一般財団法人日本建築防災協会に よる「既存鉄骨造建築物の耐震診断 指針」(1996年版、2011年版)	I _S =0.58	q=0.67			・地上9階の一部(鉄 骨造部分)	
13			吾妻郡草津町 草津 126	旅館	一般財団法人日本建築防災協会に よる「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建 築物の耐震診断基準」に定める「第 2次診断法」(2009年版)(鉄骨が充 腹材の場合)	$I_{S}/I_{S0} = 0.80$	$C_{TU} \cdot S_D = 0.38$	耐震改修	未定	・地上1階から8階部 分	耐震補強設計済
					一般財団法人日本建築防災協会に よる「既存鉄骨造建築物の耐震診断 指針」(1996年版、2011年版)	I _S =0.48	q=0.66			・地上9階部分	
		低層棟			一般財団法人日本建築防災協会に よる「既存鉄筋コンクリート造建築物	$I_{S}/I_{S0} = 0.65$	$C_{TU} \cdot S_D = 0.40$				
		宴会場棟			の耐震診断基準」に定める「第2次 診断法」(2001年版)	$I_{S}/I_{S0} = 0.30$	$C_{TU} \cdot S_D = 0.15$				

「構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価の結果」欄の数値は、建築物の各階、各方向の最小のものを記載しています。

		建築物の名称	建築物の位置	建築物の	お電砂ドのナオのタを	構造耐力上主	要な部分の地		修等の予定	備考1	備考2
No.		建築物の名称	建築物の位直	主たる用途		震に対する安全性の評価の - 結果		内容	実施時期	(耐震診断に係る補足)	(耐震改修に係る補足)
	ょろこ 存び	の宿 高松									
					一般財団法人日本建築防災協会に よる「既存鉄筋コンクリート造建築物 の耐震診断基準」に定める「第2次 診断法」(2001年版)	$I_{S}/I_{S0} = 0.30$	$C_{TU} \cdot S_D = 0.28$			・地上4階から10階部分・対象建築物ががけ地の上に位置するため、地盤指標G=1.1としている。	
		A棟			一般財団法人日本建築防災協会に よる「既存鉄骨造建築物の耐震診断 指針」(1996年版、2011年版)	I _S =0.68	q=1.28			・地上11階部分及び 塔屋階部分 ・対象建築物ががけ 地の上に位置するた め、安全性の評価に 関する判定指標値(I _S 及びq)を1.1倍割り 増ししている。	
14		吾妻郡草津町 大字草津 312他	旅館	一般財団法人日本建築防災協会に よる「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建 築物の耐震診断基準」に定める「第 2次診断法」(2009年版)(鉄骨が充 腹材の場合)	$I_{S}/I_{S0} = 0.75$	$C_{TU} \cdot S_D = 0.30$	未定	未定	・地上1階から4階部分		
					一般財団法人日本建築防災協会に よる「既存鉄筋コンクリート造建築物 の耐震診断基準」に定める「第2次 診断法」(2001年版)	$I_{S}/I_{S0} = 0.48$	$C_{TU} \cdot S_D = 0.30$	<i>7</i> (7)		・地上5階から12階 部分	
		C棟			一般財団法人日本建築防災協会に よる「既存鉄筋コンクリート造建築物 の耐震診断基準」に定める「第2次 診断法」(2001年版)	$I_{S}/I_{S0} = 0.27$	$C_{TU} \cdot S_D = 0.23$			・地上4階から9階部分・対象建築物ががけ地の上に位置するため、地盤指標G=1.1としている。	
		O1A			一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第1次診断法」により想定する地震動に対して所要の耐震性を確保していることを確認する方法	I _S /I _{S0} =2.03				・塔屋階部分 ・対象建築物ががけ 地の上に位置するため、地盤指標G=1. 1としている。	
		D棟			一般財団法人日本建築防災協会に よる「既存鉄骨造建築物の耐震診断 指針」(1996年版、2011年版)	I _S =0.05	q=0.23				

No.	建築物の名称	 建築物の位置	建築物の	料電砂ᄣの十さの夕か	構造耐力上主要な部分の地 震に対する安全性の評価の	耐震改修等の予定		備考1	備考2
INO.	建来物 奶石机	生来物の世世	主たる用途	间及砂固000万及00石机	結果	内容	実施時期	(耐震診断に係る補足)	(耐震改修に係る補足)
	*55こ 花びの宿 高松								
14		吾妻郡草津町 大字草津		一般財団法人日本建築防災協会に よる「既存鉄筋コンクリート造建築物 の耐震診断基準」に定める「第2次 診断法」(2001年版)	$I_{s}/I_{s0} = 0.25$ $C_{TU} \cdot S_{D} = 0.18$	未定	未定	・地上4階から7階部分・対象建築物ががけ地の上に位置するため、地盤指標G=1.1としている。	
		スチェル 312他	<u>世</u>	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第1次診断法」により想定する地震動に対して所要の耐震性を確保していることを確認する方法	$I_{s}/I_{s0} = 0.26$	个 是		・塔屋階部分・対象建築物ががけ地の上に位置するため、地盤指標G=1.1としている。	

「構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価の結果」欄の数値は、建築物の各階、各方向の最小のものを記載しています。

	建築物の名称	建築物の位置	建築物の	お電砂にのナキのなが	構造耐力上主要な部分の地 震に対する安全性の評価の		修等の予定	備考1	—————————————————————————————————————
No.	建築物の名称	建築物の位直	主たる用途		結果	内容	実施時期	(耐震診断に係る補足)	(耐震改修に係る補足)
	源泉湯の宿 千の谷								
		利根郡 一みなかみ町 相俣248	ホテル	一般財団法人日本建築防災協会に よる「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建 築物の耐震診断基準」に定める「第 2次診断法」(2009年版)(鉄骨が非 充腹材の場合)	$I_{S}/I_{S0} = 0.31$ $C_{TU} \cdot S_{D} = 0.20$			・地上1階から3階部 分	
	A棟 (旧住居棟)			一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	$I_{S}/I_{S0} = 0.26$ $C_{TU} \cdot S_{D} = 0.21$			・地上4階から9階部 分	耐震補強設計済
15				一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第1次診断法」により想定する地震動に対して所要の耐震性を確保していることを確認する方法	$I_{s}/I_{s0} = 0.50$		令和12年	- 塔屋階部分	
	B棟 (旧ロビー棟)			一般財団法人日本建築防災協会に よる「既存鉄筋コンクリート造建築物 の耐震診断基準」に定める「第2次 診断法」(2001年版)	$I_{S}/I_{S0} = 0.41$ $C_{TU} \cdot S_D = 0.26$	耐震改修 または 建替			
	C棟 (旧レストラン棟、会 議棟)			一般財団法人日本建築防災協会に よる「既存鉄筋コンクリート造建築物 の耐震診断基準」に定める「第2次 診断法」(2001年版)	$I_{S}/I_{S0} = 0.26$ $C_{TU} \cdot S_{D} = 0.21$				
				一般財団法人日本建築防災協会に よる「既存鉄筋コンクリート造建築物 の耐震診断基準」に定める「第2次 診断法」(2001年版)	$I_{S}/I_{S0} = 0.85$ $C_{TU} \cdot S_{D} = 0.36$			-本体建屋部分	
	D棟 (旧プール棟)			一般財団法人日本建築防災協会に よる「既存鉄筋コンクリート造建築物 の耐震診断基準」に定める「第1次 診断法」により想定する地震動に対 して所要の耐震性を確保しているこ とを確認する方法	$I_{S}/I_{S0} = 1.05$			・下屋部分	

「構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価の結果」欄の数値は、建築物の各階、各方向の最小のものを記載しています。

No.	建築物の名称		建築物の主たる用途	来」欄の数値は、建業物の各階、名 	構造耐力上主	要な部分の地		:修等の予定	備考1	
INO.	建築物の石柳	建築物の位直 			震に対する安全性の評価の 結果		内容	実施時期	(耐震診断に係る補足)	(耐震改修に係る補足)
	源泉湯の宿 松乃井 原泉湯の宿 松乃井									
	瑞雲楼			一般財団法人日本建築防災協会に よる「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建 築物の耐震診断基準」に定める「第 2次診断法」(2009年版)(鉄骨が非 充腹材の場合)	$I_{S}/I_{S0} = 0.68$	$C_{TU} \cdot S_D = 0.40$			・地上1階から5階部 分	耐震補強設計済
				一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	$I_{S}/I_{S0} = 0.41$	$C_{TU} \cdot S_D = 0.27$		未定	・地上6階から10階 部分及び塔屋階部分	
		利根郡 みなかみ町 湯原551		一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2009年版)(鉄骨が非充腹材の場合)	$I_{S}/I_{S0} = 0.80$	$C_{TU} \cdot S_D = 0.40$			・地下1階部分及び地 上1階から3階部分	
16	瑞光楼		旅館	一般財団法人日本建築防災協会に よる「既存鉄骨造建築物の耐震診断 指針」(1996年版、2011年版)	I _S =0.07	q=0.30	耐震改修		·地上4階部分	
				一般財団法人日本建築防災協会に よる「既存鉄筋コンクリート造建築物 の耐震診断基準」に定める「第1次 診断法」により想定する地震動に対 して所要の耐震性を確保しているこ とを確認する方法	$I_{S}/I_{S0} = 0.72$			7N.L	・地上4階から5階部分	10 J JAC (11) JAC (11)
	瑞泉楼			一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	$I_{S}/I_{S0} = 0.25$	$C_{TU} \cdot S_D = 0.16$				
	瑞泉楼			一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	$I_{S}/I_{S0} = 0.11$	$C_{TU} \cdot S_D = 0.07$			・地上1階部分	
	(厨房・ロビー棟)			一般財団法人日本建築防災協会に よる「既存鉄骨造建築物の耐震診断 指針」(1996年版、2011年版)	I _S =0.01	q=0.04			・地上1階から2階部 分	

「構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価の結果」欄の数値は、建築物の各階、各方向の最小のものを記載しています。

	建築物の名称	建築物の位置	建築物の主たる用途	耐震診断の方法の名称	構造耐力上主	上要な部分の地		修等の予定	備考1	備考2
No.	建築物の名称	建築物の位直 			震に対する安全性の評価の 拾果		内容	実施時期	(耐震診断に係る補足)	(耐震改修に係る補足)
	源泉湯の宿 松乃井	湯の宿 松乃井								
	大浴場			一般財団法人日本建築防災協会に よる「既存鉄骨造建築物の耐震診断 指針」(1996年版、2011年版)	I _S =0.04	q=0.19				
	瑞泉楼 (従業員洋室棟)			一般財団法人日本建築防災協会に よる「既存鉄骨造建築物の耐震診断 指針」(1996年版、2011年版)	I _S =0.43	q=1.72				
		- 利根郡 みなかみ町		一般財団法人日本建築防災協会に よる「既存鉄筋コンクリート造建築物 の耐震診断基準」に定める「第2次 診断法」(2001年版)	$I_{S}/I_{S0} = 0.43$	$C_{TU} \cdot S_D = 0.23$			・地上1階から8階部 分	
16	瑞鳳楼		旅館	一般財団法人日本建築防災協会に よる「既存鉄骨造建築物の耐震診断 指針」(1996年版、2011年版)	I _S =0.07	q=0.28			・地上7階鉄骨造部分	
		湯原551		一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第1次診断法」により想定する地震動に対して所要の耐震性を確保していることを確認する方法	$I_{S}/I_{S0} = 1.48$		耐震改修		•塔屋階部分	耐震補強設計済
	白鳳			一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第1次診断法」により想定する地震動に対して所要の耐震性を確保していることを確認する方法	$I_{S}/I_{S0} = 1.43$				・地下1階部分	
				一般財団法人日本建築防災協会に よる「既存鉄骨造建築物の耐震診断 指針」(1996年版、2011年版)	I _S =0.28	q=1.14			・地上1階部分	
	浴室棟			一般財団法人日本建築防災協会に よる「既存鉄骨造建築物の耐震診断 指針」(1996年版、2011年版)	I _S =0.001	q=0.004				

「構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価の結果」欄の数値は、建築物の各階、各方向の最小のものを記載しています。

No.		建築物の名称	建築物の位置	建築物の	計量砂能の士はの夕む	構造耐力上主要な部分の地 震に対する安全性の評価の		 :修等の予定	備考1	
INO.		建築物の名称	建架初の位直	主たる用途		 結果	内容	実施時期	(耐震診断に係る補足)	(耐震改修に係る補足)
	坐山	みなかみ(水上館)								
					一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2009年版)(鉄骨が充腹材の場合)	$I_{S}/I_{S0} = 0.39$ $C_{TU} \cdot S_{D} = 0.21$		令和10年度か ら段階的に実 施	・地下1階及び地上1階 から6階部分 ・対象建築物ががけ地に 建っているため、地盤指 標G=1.1としている。	· 耐震補強設計済
		7	利根郡 みなかみ町 小日向573	旅館	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2009年版)(鉄骨が非充腹材の場合)	$I_{S}/I_{S0} = 0.46$ $C_{TU} \cdot S_{D} = 0.33$			・地上7階から10階部分・対象建築物ががけ地に建っているため、地盤指標G=1.1としている。	
17					一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第 1次診断法」により想定する地震動に対して所要の耐震性を確保していることを確認する方法	$I_{\rm S}/I_{\rm S0} = 1.26$			・塔屋階部分 ・対象建築物ががけ地に 建っているため、地盤指標G=1.1としている。	
		本館			一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	$I_{s}/I_{s0} = 0.12$ $C_{TU} \cdot S_{D} = 0.11$	耐震改修		・地上1階から7階部分 ・対象建築物ががけ地に 建っているため、地盤指 標G=1.1としている。	
					一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第1次診断法」により想定する地震動に対して所要の耐震性を確保していることを確認する方法	$I_{\rm S}/I_{\rm S0} = 1.05$			・塔屋階部分 ・対象建築物ががけ地に 建っているため、地盤指標G=1.1としている。	
		尾瀬亭			一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	$I_{S}/I_{S0} = 0.65$ $C_{TU} \cdot S_{D} = 0.43$			・地下1階部分 ・対象建築物ががけ地に 建っているため、地盤指標G=1.1としている。	
					一般財団法人日本建築防災協会に よる「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建 築物の耐震診断基準」に定める「第 2次診断法」(2009年版)(鉄骨が充 腹材の場合)	$I_{S}/I_{S0} = 0.56$ $C_{TU} \cdot S_{D} = 0.11$			・地上1階から7階部分・対象建築物ががけ地に 建っているため、地盤指標G=1.1としている。	

No.	검	建築物の名称	建築物の位置	建築物の	計画砂能の十さの夕か	構造耐力上主要な部分の地 震に対する安全性の評価の	耐震改修等の予定		備考1	備考2
	Α.		生 末初の 団 固	主たる用途		結果	内容	実施時期	(耐震診断に係る補足)	(耐震改修に係る補足)
	坐山み	なかみ(水上館)								
17	谷谷		利根郡 みなかみ町 小日向573	旅館	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	$I_{S}/I_{S0} = 0.18$ $C_{TU} \cdot S_{D} = 0.16$	耐震改修	令和10年度か 修 ら段階的に実 施	・地下2階、地下1階及び 地上1階から4階部分 ・対象建築物ががけ地に 建っているため、地盤指 標G=1.1としている。	. 耐震補強設計済
						$I_{S}/I_{S0} = 0.34$ $C_{TU} \cdot S_{D} = 0.15$			・塔屋階部分 ・対象建築物ががけ地に 建っているため、地盤指標G=1.1としている。	

No		建築物の名称建築物の位置		建築物の	未」欄の数値は、建業物の各階、を 耐震診断の方法の名称	構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価の		修等の予定	備考1 (耐震診断に係る補足)	備考2 (耐震改修に係る補足)
				主たる用途		結果	内容	実施時期	(耐震診断に係る網足)	(耐震以修に係る補足)
	水上	ホテル聚楽								
		み	利根郡 みなかみ町 湯原665	旅館	一般財団法人日本建築防災協会に よる「既存鉄筋コンクリート造建築物 の耐震診断基準」に定める「第2次 診断法」(2001年版)	$I_{S}/I_{S0} = 1.01 C_{TU} \cdot S_{D} = 0.63$		_	・地上1階から6階部 分	
18					一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第1次診断法」により想定する地震動に対して所要の耐震性を確保していることを確認する方法	$I_{S}/I_{S0} = 1.06 C_{TU} \cdot S_{D} = 0.60$			・地上7階の一部及び 塔屋階部分	
					一般財団法人日本建築防災協会に よる「既存鉄骨造建築物の耐震診断 指針」(1996年版、2011年版)	I _S =0.64 q=2.56	1 –		・地上2階から3階の 一部	耐震改修済 平成30年9月完了
						撤去済み			・地上7階の一部	-
		本館			建築物の耐震診断及び耐震改修の 実施について技術上の指針となるべき事項第1第二号に定める建築物の 耐震診断の方法				・支持地盤は岩盤(第 1種地盤)で、振動特 性係数R _T =0.490とし ている。	
		管理棟				I _S =0.65 q=1.08			・支持地盤は岩盤(第 1種地盤)で、振動特 性係数R _T =0.829とし ている。	